

はくぶつかんネット 55号

平成28年1月～3月号
宜野湾市立博物館発行

あぎ
ぎのわんの“字”展

大山展～和気満堂・協力一致～



毎年、宜野湾市内の地域の一つを取り上げ、紹介する「ぎのわんの“字”展」。第9回目となる今回は大山区に焦点を当て、「ぎのわんの“字”展 大山展～和気満堂・協力一致～」(平成28年1月28日～3月6日)を開催しました。

大山の辿ってきた歴史や文化財の解説、民具の展示を始め、大山で見られる生き物や自治会で行われている様々な活動についてのコーナーも設けられました。

来館者の皆さんからは、「懐かしい」という声が多く聞かれました。大山区の方々の中には「知り合いの〇〇が出ています」と、展示写真や映像に見入っていた方もいらっしゃり、特に喜んでいただけたようです。

ご協力いただきました大山区自治会の皆さま、貴重な資料をご提供くださいました皆さま、展示会にお越しいただいた皆さま、本当にありがとうございました。



オープニングセレモニー



又吉亮自治会長のごあいさつ



大山の特色の中から3つ挙げるとしたら、「大山のタイモ畑(大山ターブックワ)」、「大山の綱引き」、そして「ウヤマンクー」でしょう。大山んちゅの結束力はとても強く、大山の綱引きに代表されるような伝統行事にもそれがよく表れていると思います。

今回の大山展開催にあたり、多くの皆さまにご協力いただきました。心より感謝申し上げます。この企画展を通して、大山のことをたくさんの方々を知っていただければ幸いです。

展示会の様子



大変多くの皆さまにご見学いただきました!ありがとうございました!

大山ってどんな地域？

大山は宜野湾市の西側にあるよ。市内でも特に面積の広い字なんだ。^{あざ}



大山は、北東側を伊佐、南東側を宜野湾、南西側を真志喜に囲まれた場所に位置しており、「ウヤマ」と呼ばれていました。西海岸沿いには多くの湧き水があり、水田が広がっています。そこで育てられる田イモは地域の特産物になっています。また、綱引きが地域の代表的な行事となっており、現在でも毎年7月下旬から8月上旬にかけて、大山小学校グラウンドにて開催されています。さらに、大山貝塚や大山マヤーガマ洞穴遺跡を始めとする貴重な史跡も残されています。このように、大山は多方面から「その地域の良さ、個性」を知ることができる、魅力あふれる字^{あざ}なのです。

大山の見どころ

◆ 綱引き



大山には見どころがたくさんあるよ。
展示された資料の一部をご紹介します！



大山の綱引きでは、「メンダカリ（前村渠・雄綱）」と「シンダンカリ（後村渠・雌綱）」の二組に分かれて競いますが、綱引きの前に“アギー”勝負を行うのが特徴です。アギーとは、メンダカリとシンダンカリの両者が綱に挿した棒を持ち上げてお互いの綱同士をぶつけ合う勝負で、相手の綱を先に地面に落とした方が勝ちとなります。綱引きとはまた異なる面白さがあり、2本の綱を高く持ち上げてぶつけ合う様子は非常に迫力があります。

アギーが終わると、綱引き本番です。綱引き時には、雄綱、雌綱それぞれのカナキ（2本の綱の先端にある輪っか状に編まれた部分）を組み、一つの長大な綱にします。左下の写真のカナキ棒は、その時に組まれたカナキに差し込み、綱が外れないよう固定するためのものです。また、右下の写真は、現在の大山の綱引きで実際に使われている旗頭になります。旗はそれぞれ全長5.8m、重さ30kgもありますが、旗を上手に揚げられる技量も競われます。「和気満堂」「協力一致」という旗字からは、一致団結した大山区の方々のエネルギーが伝わってくるようですね。



綱引きのときに着用された衣装



シンダンカリの旗頭

メンダカリの旗頭

カナキ棒

とっても大きいよ！

◆ ラッキーワイン

かつて、宜野湾でワインが造られていたことをご存じですか？ワインといっても、ぶどうから造るものではなく、泡盛ベースのカクテルだったようですが、「ラッキーワイン」という名前で販売されていました。

しかし、ラッキーワインに関する手がかりは少なく、1950年代に撮影されたラッキーワインにまつわる写真と、製造地が大山だったということ、ラッキーワインの他に「ラッキースローゼン」、「ラッキードライ」という銘柄のお酒も共に製造されていたこと、テレビコマーシャルが放映されていたこと以外には、ほとんど明らかになっていません。

今となってはその味を知ることはできませんが、50年以上前の大山に酒造所があったということとは、なかなか興味深い事実ではないでしょうか。



お知らせ

企画展「ぎのわんの“字展”大山展」の図録は博物館で無料配布しております。ご希望の方は窓口の職員までお声かけ下さい。

市史だより * がちまやあ Gači-majaa

地域探訪 ～大謝名編～

第3回 大謝名の名所



前回到引き続き、大謝名探訪の第3弾！最終回です。今回は、昔から地元の方々が大切にしてきた場所を紹介します。

土帝君



▲左から土帝君・地頭火又神・謝魂之塔

大謝名区公民館裏側からパイプライン通りへ向かう道沿いに、土帝君(トゥーティークー)・地頭火又神・慰霊の塔「謝魂之塔」が祀られている広場(メヌモー)があります。

そのうち土帝君は土地神、すなわち農業の神様として中国から伝わった神と言われ、宜野湾市では大謝名と字宜野湾で祀られています。大謝名の土帝君は、もともと、^{オトツラ}港田原(小字名)という水田地帯だった所、現在の大謝名団地自治会辺りにあったようです。

戦前は三角錐状の石が神体とされており、旧暦2月2日の腰懸いの日に拝まれ、時代によって牛や豚・鶏等を供え、豊作を祈願していました。

現在、祠には「土帝君」と書かれた石が祀られています。「土帝君の拝み」は大謝名獅子舞保存会が継承し取り行っています。旧暦2月2日に、保存会役員や老人クラブの方々が、祠の前で酒と米、重箱料理等を供え、線香を焚いて無病息災や健康を祈願します。



▲土帝君の祠

大謝名では獅子舞保存会が地域の伝統行事や拝所を管理・継承しています。

拝所や湧水は定期的に見回り、整備の必要がある場所は年に2回の区民清掃の日にきれいにしています。



ウシアシガー



▲ウシアシガー

大謝名1丁目にある湧水です。戦前はここで牛や馬を洗い、戦後、周辺に人が住むようになると生活用水や子ども達の遊び場として利用されました。きれいな景観を保ち、現在は、小魚やエビなど小さな生き物たちを観察することができます。



▲テナガエビの仲間

黄金宮



▲黄金宮の外観



▲黄金宮の祠

黄金宮(クガニナー)は^{きつと}察度が王になる前に居住し、黄金を見つけたといわれる場所として有名です。戦前、この周辺はうっそうとした森だったようですが、現在は少しだけの緑を残し、敷地内に祠が置かれています。旧暦8月15日の豊年祭で獅子舞保存会によって拝まれています。



また、ここには地元からだけではなく、市外から訪れる方もいます。大謝名4丁目の住宅街の中にぽつんとあるため、初めて訪れる方がよく迷ってしまうようです。地元の方へ「黄金宮に行きたいのですが、場所はどこですか〜?」という問い合わせが多かったため、一目見て分かるようにと昨年の春頃に看板が立てられました。パイプライン通りから黄金宮へ向かう道には所々に案内板が立っていますので、それを目印に訪れてみてはいかがでしょうか。

大謝名メヌカー



降り口は2か所あり、北側には25段の石畳道が残っています。

大謝名メヌカーは、大謝名小学校横にあります。大謝名地区発祥と大きくかわる重要な湧水で市指定史跡になっています。産水、若水、死水を汲むなど、節々に拝まれ、上水道が普及するまでは水浴び・洗濯等に利用されていました。湧き水の落ちる底石面には、淡水紅藻のタニコケモドキとオオイシソウが確認されています。これらの藻は、もともと海場に生息していたと考えられ、かつてこの地が入江だったことを裏付ける生き化石として貴重であり、市指定天然記念物となっています。



▲大謝名メヌカー

旧暦8月15日の豊年祭の折には他の拝所と共に、大謝名獅子舞保存会によって拝まれています。今でも水量が豊富で昔が恩ばれる場所です。

今回は紹介できませんでしたが、他に、屋敷跡に祠を置いた又吉(マテーシ)や湧水を埋めた跡に香炉が置かれているミーガー(クシヌカー)などがありますよ。



大謝名を巡ってみて

大謝名を歩いてみて、まず驚いたのが、地区内の高低差でした。そのため、坂が多いですが、坂の上の方は景色が良い所が魅力的です。坂下にあたる西側は古くからの湧水があり、小さな生き物たちも暮らしています。住宅建設等で失われた聖地もありますが、祠を移動させて祀り、旧暦8月十五夜に獅子舞を行うなど、都市化が進んでいる一方で祭祀・伝統行事も大切に継承している地区でした。

皆さんがお住まいの地域はどんな所ですか?歩いてみると、何か新しい発見があるかもしれません♪

平成27年度 市史編集事業報告

ぎのわんのサングワチャー調査

今年度、サングワチャー(三月遊び)調査では字宜野湾・我如古・伊佐・嘉数・大謝名・神山・長田・志真志・愛知・中原・赤道の皆様から楽しいお話を聞かせていただきました♪現在、普天間・新城でも調査中です。

来年3月の刊行にむけて編集をしながら、補足調査としてまた皆さんの地域へ伺うことがありとしますので、その際はご協力をよろしくお願いいたします。



▲聞き取り調査の様子

伊佐浜の土地闘争編

平成21年度からスタートした『宜野湾市史』第8巻戦後資料編「伊佐浜の土地闘争(資料編)」も7年目を迎えました。今年度は主に本文構成の見直しを行い、収録予定の文書資料の確認と問題点を整理しました。本巻は土地闘争関係者からの証言記録と、関係文書の2編で構成します。文書資料や英文資料の掲載方法について専門家から意見を聞き、読者が理解しやすい構成を検討しています。今年度は市史編集係の博物館学芸係との統合もあり、十分な取り組みとはいえませんが、28年度に編集の総仕上げ、29年度の刊行にむけて作業を進めています。



歴史公文書整理・活用事業



昨年度に続き、歴史公文書のデータベース入力(文書の名称・内容・状態等の記録)を進めました。

1950・60年代の文書は傷みが激しく、ボロボロになっているものもあります。これ以上文書を痛めないように作業時は気を使います。

クリップやホチキス等の金属類からは錆が出て文書を痛めているため、金属を取り外し、こよりで綴じ直します。また、資料の保存や今後の活用のため、マイクロ化・CD化も行っています。特に貴重な文書については、修復も依頼しました。市民の財産である歴史公文書の整理・保存・活用のため、一冊一冊を大切に扱い作業を進めています。



金属による文書の痛み



現在、『ぎのわんの地名—内陸部編—』・『ぎのわん自然ガイド』・『宜野湾 戦後のはじまり』は売り切れ中です。

※『宜野湾 戦後のはじまり』は来年度に増刷する予定ですので、しばらくお待ちください。



写真集「ぎのわん」 ¥1,500(税込)

明治から現代まで、昔懐かしい宜野湾の風景や時代とともに移りゆく人々の生活が写しだされた写真集です。

平成27年度、お問合せの多い人気本です!

この他、宜野湾市の歴史・自然・文化に関する本がまだまだございます!ぜひ、宜野湾市教育委員会文化課・市立博物館でお買い求めください。また、売り切れ中の本は市民図書館・市立博物館でも閲覧可能です。



第16期わらば～体験じゅく



「わらば～体験じゅく」とは、市内在住の小学5・6年生の30名を対象に、普段触れることの少ない郷土の自然や文化など体験を通し、学んでもらう事を目的とした体験教室です。子ども達は、田イモの植付けや漆喰シーサーづくり、今年もたくさんの体験を行い、協力し合いながらたくましく成長していました。ここでは第16期生が取り組んだ体験を紹介したいと思います！

〈6月〉講師：博物館職員



◆開校式：博物館探検・昔の道具体験◆

わらば～体験じゅくの開校式では、わらば一達の自己紹介を行いました。その後、普段見ることができない収蔵庫の見学や、昔の道具体験を行いました。

〈7月〉講師：比嘉 和行先生 (わにや耕房代表)



◆漆喰シーサー作り◆

昔から魔除けとして親しまれていて、漆喰シーサー作りしました。瓦の欠片と漆喰を自由に組み合わせさせて、一人ひとり形の違ったオリジナルシーサーができて上がりました。

〈8月〉講師：石川 達義先生 (大山田イモ農家)



◆田イモの植付けに挑戦してみよう!◆

宜野湾市の特産物である田イモは沖縄では切り離せない食べ物となっています。実際に植付けることで、田イモの特徴や、食べ物を育てる農業の大切さを楽しみながら学ぶ事ができました。

〈9月〉講師：松本 眞清先生

屋比久 康勝先生・博物館職員



◆昔のおもちゃづくり◆

昔のおもちゃ、竹とんぼ作りに挑戦しました。ナイフで竹を削ったり、火であぶったりと苦戦していましたが、全員無事に竹とんぼが完成し、飛ばして遊ぶことが出来ました。

〈10月〉講師：宮城 邦治先生 (博物館館長)

喜屋武盛信さんと牛舎の方々



◆ウシとふれ合おう!◆

かつて宜野湾でも盛んに行われていた闘牛について学ぶため、中城村の牛舎に体験に行きました。牛舎ではウシの餌やりやブラッシング、フンの片付けや散歩、闘牛の練習風景などを見学しました。またウシの上に乗せてもらい、記念撮影も行いました。

〈11月〉講師：博物館職員



◆村獅子を探せ!◆

宜野湾市喜友名にある市指定文化財「喜友名の石獅子群」を巡りました。ウォークラリー形式だったのでとても楽しく、地域の文化財に触れ学ぶことができました。

〈12月〉講師：博物館職員



◆豆腐作り◆

昔の道具を使って、大豆から豆腐を作りました。にがりを入れる工程に、固まるかな?とワクワクした顔で楽しそうに体験を行っていました。作り終えた後は、みんなで作った豆腐を試食しました。

〈1月〉講師：宮城 徳康先生 (大山田イモ農家)



◆田イモの収穫に挑戦してみよう!◆

第3回の「田イモの植付け」と関連して、収穫体験を行いました。寒い日でしたが、みんなでたくさんの田イモを収穫しました。収穫した後は、田イモのお土産もありました。また沖縄タイムスさんに、わらば一達の収穫の様子が掲載されました。

〈2月〉講師：博物館職員



◆森川公園探検：閉校式◆

森川公園を探検して、身近な自然と触れ合いながら、観察を楽しみました。その後の閉校式では、一人ひとりに修了証が授与されました。また修了証の他に、皆勤賞も授与されました!最後は賞状を持って皆でハイチーズ!!

博物館市民講座

今年度も6月から毎月1回、宜野湾市の歴史や文化に興味を持った方々が市内外問わず、当博物館の市民講座に参加してくださいました。悪天候のため、中止になってしまった講座もありましたが、無事、市民講座を終了することができました。各講座に参加して下さった皆様、ご講演をいただきました講師の方々、本当にありがとうございました！

来年度も皆様に、市民講座を楽しんで学んでもらえるよう企画をしていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願ひします！

6月「宜野湾の戦争と戦後」

講師：吉浜 忍先生（沖縄国際大学 教授）



今年は戦後70年の節目の年という事で、企画展の関連講座を行いました。宜野湾市にあった収容所生活のお話や、収容所から帰村した人々と、宜野湾市の復興についてなどのお話をいただきました。

8月「戦後70年を語る」

講師：仲村 元惟先生（宜野湾市史編集委員会 委員）



今年は戦後70年の節目という事で、企画展に関連した講座を行いました。講座では、元惟先生ご自身の体験談や、戦前後の宜野湾市の話など、ユーモアを混ぜてお話していただきました。

9月「大謝名の獅子舞見学ツアー」

講師：我如古 香（宜野湾市立博物館 嘱託員）

★野外講座★



宜野湾市指定無形民俗文化財である大謝名の獅子舞について博物館で学び、その後、実際に大謝名の豊年祭で行われる獅子舞を見学しました。本物の獅子舞の演技には、受講者の方々も圧倒されていました。



10月「中部のグスクめぐり」

講師：知念 勇先生（元宜野湾市立博物館 館長）

★野外講座★



昨年から大好評でしたグスクめぐりは、元館長である知念先生を講師に迎え、勝連グスクや越來グスク、座喜味グスクなど中部のグスクを巡りました。みなさん熱心に学ばれていました。

11月「湧き水めぐり」

講師：平敷 兼哉（宜野湾市立博物館 学芸係長）

★野外講座★



宜野湾市には100以上の湧き水が確認されています。数ある湧き水の中から、台地を構成する地形と地質の関係から紹介しました。また、普段は入ることのできない、喜友名チューナーガーも見学することができました。

12月「山田真山の想い出」

講師：糸数 政次先生（沖縄県立芸術大学 教授）



宜野湾市出身の芸術家でもある山田真山。その山田真山の教えを受け継ぎ、平和祈念像制作に携わった、糸数先生を講師に迎えました。平和祈念像の制作の日々や、堆積技法についてお話をいただきました。

2月「めぐてい！イガルーシマ～大山編～」

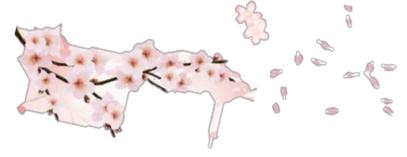
講師：平敷 兼哉（宜野湾市立博物館 学芸係長）

★野外講座★



文化財や歴史的な場所を巡り、地域の魅力を再発見することを目的とした企画展関連講座です。今回は大山区をウォーキングで巡りました。地元の方も市外の方も、新たな大山の魅力を発見することができたようです。

～27年度を振り返って～



館長:宮城 邦治

宜野湾市立博物館は天女伝説ゆかりの地に、平成11年6月1日に開館しました。平成27年度は開館16年目にあたることから、前年度に作製した「基本計画書」を基に、より魅力的な博物館を目指して、常設展示室のリニューアル実施設計に取り組んでいます。29年度には、素晴らしい博物館に生まれ変わるものと期待しています。また、今年度は沖縄戦から70年目という大きな節目の年となり、博物館でも戦後70年の企画展を開催したところ、「慰霊の日写真パネル展」と「宜野湾、戦後の復興とくらし展」には多くの市民、県民が訪れました。これを機に、沖縄戦の実相や普天間基地の成り立ちがよく理解できた、という声が多く寄せられました。市内の小中学校との連携で実施した「文化財図画作品展」には200点近い応募があり、児童生徒の文化財への関心の高さを知ることができました。「ぎのわんの“字”展(大山展)」も好評で、多くの区民や市民が大山のチナヒキ(綱引き)の展示に見入っていました。

市民講座では戦後70年に関する講座や獅子舞、グスク巡り、湧水巡りなどにも多くの参加者がありました。山田真山との思い出、めぐていイガルーシマでは、改めて郷土の偉人を偲び、シマの歴史を感じる事ができました。市内の小学生を対象にした「わらば一体験じゅく」では、オモチャ作りや豆腐作り、田イモ収穫など楽しそうに取り組む児童の笑顔が印象に残っています。市内外の多くの小学校からは、団体児童の来館があり、昔の生活を学び体験する機会がありました。

市立博物館は、地域に親しまれる文化施設として大きな役割を果たしています。これからも多くの来館者の期待にこたえるよう、楽しく有意義な企画を実施していきたいと考えています。市民のみなさんのご協力をご理解をお願いいたします。



宜野湾市立博物館



- 入館料：無料
 - 開館時間：9～17時(入館は16時30分まで)
 - 休館日：毎週火曜日、年末年始(12月29日～1月3日)
祝日(慰霊の日、文化の日は除く)
- ※火曜日と祝日が重なったときは、翌日の水曜日も休館です。
その他、臨時休館になる場合もございます。

お問い合わせ ☎901-2224 宜野湾市真志喜 1-25-1
TEL : (098) 870-9317 FAX : (098) 870-9316

ホームページもチェックしてね!

宜野湾市立博物館

検索



27年度も多くの方々に博物館をご利用いただき、ありがとうございました。
28年度も宜野湾市立博物館を、よろしく願いいたします。